

コロケーションによる類義語の記述

—コーパスに現れた “가까이” と “근처 (近處)” —

須賀井 義 教

1.はじめに

1.1. 問題の提起

本稿は、現代韓国語の “가까이” 「近く、近くに」と “근처(近處)” 「近所」を対象として、コロケーション(collocation)¹⁾の観点からその違いを記述しようとするものである。

韓国語に限らず、外国語の学習において学習者が困難を感じる点は数多くあろうが、そのひとつに類義語の学習が挙げられる。あるふたつの単語に対し、同じような訳語があてられている場合、そのふたつの単語は同様に使うことができるのか、あるいは違いがあるのか、またどのような違いがあるのかという点について、学習者自身は判断することができない。個別の類義語について、教材や辞典に記述がある場合は大きな問題とならないが、そのような言及がない場合、学習者が誤った文、あるいは不自然な文を作ってしまう可能性がある。

本稿で対象とする “가까이” と “근처” は、どちらも日本語で「近く」と訳すことができ、韓国語の初級教材などにも多く現れる²⁾が、例えば生越直樹・曹喜澈(2000)においては、次のような文が見られる³⁾：

(1) 신촌 가까이에 있습니다.(新村の近くににあります) (p.32, 第7課本文)

(2) a. この近く(근처)に書店はありませんか。 (p.62, 作文練習)

b. 김정숙さんの家はどこにありますか。—ソウルの近くに 있습니다。 (p.62, 作文練習)

上の(1)は、第7課の本文に現れたものであるが、“가까이” に対し「近く」の訳が与えられている。一方(2)は、日本語を韓国語に翻訳する練習問題である。(2a)では「近く」に該当する韓国語として“근처” が示されているのに対し、(2b)においてはそうではない⁴⁾。このような場合、(2b)に対する学習者の回答として、“서울 근처에 있습니다”, “서울 가까이에 있습니다” のふた通り

が出てくる可能性がある。“가까이”と“근처”に全く違いがなく、どのような場合でも言い換え可能であれば問題にならないが、実際には“?이 가까이에”のような表現に対し、韓国語母語話者から、あまり使わない、不自然であるといった意見が聞かれる。しかし、学習者の立場からすれば、どのような表現が自然であり、どのような表現が不自然であるかといった判断は不可能である。

こうした類義語の教育においては、それらの語が実際どのように用いられるのか、どのような語とともに使われるのかという点をあわせて指導することで、学習者の語彙力をより向上させることが可能であると考えられる。特に本稿では、“가까이”と“근처”の前後に現れる要素にどのような違いがあるのか、コーパス(corpus, 말뭉치)を用いて分析していきたい。

1.2. 先行研究について

韓国語の“가까이”と“근처”とを中心に記述した研究は管見の限り見当たらない。しかし、語彙教育や辞典における記述、特に、学習者に対し提示するための示差的な語彙情報を得るため、コーパスを利用した類義語の研究が多く行なわれている。

副詞の教育を扱った강현화(2000:62)では、類似した意味の副詞について、コーパスを用いて呼応する成分を正確に分析することで、学習者に明確な説明を与えることができるというコーパス利用の利点を挙げている。また、コロケーションに関しては, 문금현(2002), 한송화・강현화(2004)などにおいて語彙教育への積極的な活用が提唱され、その指導方案も提示されている。

以上の成果を踏まえ、個別の類義語に関する研究が行なわれているが、‘방금’と‘금방’「すぐ」を扱った봉미경(2005), ‘사이’と‘동안’「あいだ」を扱った유현경(2007), ‘아래’と‘밑’「下」を扱った유현경・남길임(2007)など、近年業績が増えつつある。学習用辞典の必要性が高まり、その編纂が進む中で、これら類義語の個別的な記述が充実することは大変望ましい。本稿は、こうした研究の流れの中で、“가까이”と“근처”の記述を試みるものである。

1.3. 用例の抽出方法

本稿で主要な資料として用いたのは、21世紀世宗計画において作成、提供している「연구・교육용말뭉치 I」である。このコーパスより用例を抽出したが、その際には「문어(Written)」コーパスのみを調査対象とした。コーパスの規模は9,014,915文節である。

用例抽出に際しては、同じく21世紀世宗計画で提供している検索プログラム「글잡이 II(직접)」を用いて、‘*가까이*’, ‘*근처*’という正規表現式により、用例を検索した⁵⁾。誤入力などを手

作業で除外した結果、本稿で研究対象とする用例は“가까이”が 1,116 例，“근처”が 629 例である。コーパス全体に対する占有比率は“가까이”が 0.0124%，“근처”が 0.0070%となっている。以下の記述において提示される例文は、特に断りのない限りこの用例を基にする。

さらに本稿では、補助資料として KAIST Concordance Program (<http://csfive.kaist.ac.kr/kep/>)にて公開、7000 万文節も利用した⁶⁾。KAIST コーパスにおける“가까이”の用例数は 6,993 例，“근처”の用例数は 3,726 例であった。

本稿ではまず，“가까이”と“근처”の前後の要素を検討していくが、前後の要素を抽出する際には、分かち書きを基準として機械的に処理を行った⁷⁾。以下の(3)は、(4)のように処理される：

- (3) 지난 10 년 동안 북한은 육군을 2배 가까이 증강시키면서, 전차 및 포대보 강등을 통해 기동성을 대폭 강화해 왔다.

(この 10 年の間、北朝鮮は陸軍を 2 倍近く増強しつつ、戦車及び砲台補強などを通じて機動性を大幅に強化してきた)

(4)

| ~N-5 | N-4 | N-3 | N-2 | N-1 | 中心語 | N+1 | N+2 | N+3 | N+4 | N+5~ |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|----------|
| 지난 10년 | 동안 | 북한은 | 육군을 | 2배 | 가까이 | 증강시키면서, | 전차 | 및 | 포대 | 보강 등을... |

このような方法をとることで、多くの資料を一括して処理することができるという利点があるが、いくつかの問題もある。例えば、機械的にスペース文字を処理するため、入力されたデータによって分かち書きが異なる場合、得られる結果も異なることがある。具体的に言えば、(3)のような場合、“2 배”の“2”と“배”の間にスペースがあれば、N-2 が“2”，N-1 が“배”となる。実際に、対象とするデータにおいて、こうした分かち書きのばらつきが多く見られた。しかし本稿では、厳密な数値を求めるのではなく、どのような傾向が見られるのかを優先したため、分かち書きの誤りもそのまま含めた。

1.4. 本稿で用いる用語について

本稿では，“가까이”と“근처”の前後に現れる要素について分析を行なう。Sinclair(1991)では、コロケーション(collocation)を「あるテキストにおいて、互いに短い距離の中に現れる 2 つあるいはそれ以上の語の出現」(Collocation is the occurrence of two or more words within a

short space of each other in a text)と定義している。ここでは, “가까이” と “근처” を基準として, その前後に現れる語との共起関係をコロケーションと呼ぶことにする。また, 基準となる “가까이” と “근처” を「中心語」と呼び, N-1 や N+1 の位置に現れる語をそれぞれ「先行要素」, 「後行要素」と呼ぶ。中心語と先行・後行要素は, それぞれ Sinclair(1991)の “node”, “collocate” にあたる。

2. 辞書における “가까이” と “근처” の記述

ここでは, 既存の辞書において “가까이” と “근처” がどのように記述されているのか検討してみる。まずは韓国で出版された辞書のうち, 国立国語研究院が編纂した『표준국어대사전』(以下『표준』)と, 延世大学校言語情報開発研究院が編纂した『연세한국어사전』(以下『연세』)の記述を整理してみよう。

表 1: 韓国の辞書における “가까이” の意味記述

| | 『표준국어대사전』 | 『연세한국어사전』 |
|-----|--|---|
| 가까이 | <p>[부사] (1) 한 지점에서 거리가 조금 떨어져 있는 상태로. (2) 일정한 때를 기준으로 그때에 약간 못 미치는 상태로. (3) 사람과 사람의 사이가 친밀한 상태로.</p> <p>[副詞] (1)ある地点から距離が少し離れている状態。(2)一定の時を基準に, その時に少し及ばない状態。(3)人と人の間が親密な状態。</p> | <p>[부사] (1) 근처에. 거리가 멀지 않게. (2) 서로 사귀는 관계가 친하게.</p> <p>(3) [가까이(는)]의 꼴로 쓰이어] 지금부터 얼마 되지 않은 과거에. (4) [주로 ‘~가까이’의 꼴로 쓰이어]‘~가 거의.’ (어떤)정도에 거의 미칠 만큼. (참)~: 수량을 나타내는 말</p> <p>[副詞] (1)近所に. 距離が遠くなく。(2)互いに付き合う関係が親しく。(3)[가까이(는)]의形で使われ]今からいくらもならない過去に。(4)[主に‘~가까이’의形で使われ]~가ほとんど. (ある)程度にほぼ及ぶほど. (参考)~: 数量を表すことば。</p> |

| | | |
|-------|--|--|
| | <p>[명사] 가까운 곳. [名詞]近いところ。</p> | <p>[명사] (1) [‘~ 가까이’의 꼴로 쓰이어] 가까운 곳. 근처. (2) 어떠한 기준에 거의 다다를 정도. (참)~: 기준이 되는 곳이나 수량 [名詞] (1)[‘~ 가까이’의形で使われ]近いところ. 近所. (2)ある基準にほぼ達する程度. (参考)~: 基準になる場所や数量</p> |
| 가까이하다 | <p>(1) 【(과)】 【을】 (...과가 나타나지 않을 때는 여럿임을 뜻하는 말이 주어로 온다)→가까이(3). (2) 【을】 좋아하거나 즐기다. (3) 『복』 어느 지점에 접근하다.</p> | <p>(1)(ㄱ) 접근하다. (ㄴ)(바람직하지 않은 사람과)친하게 지내다. (2) 어떤 것을 가까운 곳에 두고 자주 즐기다. (1)(ㄱ)接近する. (ㄴ)(望ましくない人と)親しく過ごす. (2)あるものを近いところにおいてよく楽しむ。</p> |
| | <p>(1) 【(과)】 【을】 (‘...과’ が現れない場合は複数であることを意味することばが主語に来る)→가까이(3). (2) 【을】 好んだり楽しむ. (3) 『北』ある地点に接近する。</p> | |

上の表は“가까이”に関する記述であるが，副詞としての用法と，名詞としての用法が記述されている点でほぼ同一である。『표준』ではひとつの見出しにまとめているが，『연세』においてはそれぞれの品詞ごとに見出しを別に立てている。どちらの辞書においても，名詞として用いられる“가까이”について“가까운 곳”「近いところ」と解釈してあるが，『연세』はさらに“근처”も追加している。

次は“근처”の記述である。

表 2: 韓国の辞書における“근처”の意味記述

| | 『표준국어대사전』 | 『연세한국어사전』 |
|----|-------------------------------------|---------------------------------|
| 근처 | [명사] 가까운 곳. ㄴ근린(近隣)[2] · 근방 01(近方). | [명사] (한 곳에서) 가까운 곳. (유) 근방 · 부근 |

| | | |
|--|-------------------------|----------------------------------|
| | [名詞]近いところ。≒近隣[2]・近傍(01) | [名詞](ある場所から)近いところ。(類義語) 近傍・付近 |
|--|-------------------------|----------------------------------|

“근처”については、どちらの辞書も同様に記述していることが分かる。“가까이”とは異なり、名詞としての用法しか持たないことが分かる。

以上の辞書記述をまとめると、①“가까이”は名詞だけでなく副詞としても用いられ、さらに②“가까이”は「ある基準にほぼ達する程度」という意味、「(人間関係が)親密に、親しく」という意味も持っている。ただし③名詞としてはどちらも「近いところ」の意味で共通する。すなわち、“근처”よりも“가까이”の方が表す意味の範囲が広いことが分かる。

日本で出版された韓日辞書はどうであろうか。ここでは日本語母語話者が中心となり、日本で独自に編集された辞書2種を取り上げる。まずは油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎(1993)『朝鮮語辞典』を見てみよう：

(5) 가까이[副]

1. 近く(に). (对)멀리. 『～ 있는 대중탕 近くにある銭湯 / 연못에 ～ 가지 마라. 池に近寄るな.
2. 親しく. 『～ 사귀다 親しくつきあう.
・名詞的にも用いられる. ただし主格・目的格としては用いられない. 『이렇게 ～ 서 살고 있는데도 서로 모르고 있었군요. こんなに近くに住んでいたのにお互い知らずにいたんですね.

(6) 근처[名] 近所, 付近, そば, あたり, まわり, 近辺. (類)근방. 『그 ～는 위험한 곳이다. そのあたりは物騒な所だ / 이 ～에는 공장이 많다. この近所には工場が多い.

ここでは“가까이”の品詞を副詞としてのみ登録し、「名詞的にも用いられる」と付け加えている。また『朝鮮語辞典』の記述では、“가까이”と“근처”にそれぞれ「近く」と「近所」のごとく異なった訳語をあてていることが分かる。

次は菅野裕臣ほか編(1988;1991)『コスモス朝和辞典』における記述である：

(7) 가까이[副] 近く. 지하철 역 가까이에 살고 있으니까 교통이 편리해요.(地下鉄の駅近くに住んでいますから、交通が便利です.)

- (8) 근처[名] 近所. 저는 학교 바로 근처에 살고 있어요.(わたくしは学校のすぐ近所に住んでいます.)

『コスモス朝和辞典』においては、“가까이”自体は空見出しとして登録されており，“가깝다”「近い」の下位項目として記述されている。ここでも『朝鮮語辞典』と同様に、「近く」と「近所」のごとく訳が分けられている。

韓国で編纂された辞書の記述と比べつつ整理してみると、『朝鮮語辞典』『コスモス朝和辞典』のどちらも距離に関して「近い」ことだけが取り上げられており、「3 時近く」「10km 近く」など、基準となる数値、分量、時間などに「近い」という意味は見受けられない。また「親しく」の意味は『朝鮮語辞典』のみ記述されている。また、どちらの辞書も“가까이”を名詞として記述することには消極的である。

以上のような辞書の記述から、名詞として「近いところ」の意味で用いられる場合，“가까이”と“근처”がほぼ類似した意味を持っているといえる。本稿では副詞としての用法も含め、総合的に用例を検討していく。コーパスから得られた資料を基に，“가까이”と“근처”がどのような語とあわせて用いられるかという点に焦点を当て、考察していく。

3. 中心語の形式

“가까이”と“근처”の先行・後行要素について具体的に見ていくに先立ち、まずは中心語である“가까이”と“근처”がどのような形式で現れたかを確認してみよう。1.3.で説明したように、機械的にスペース文字を処理したため、例えば「가까이」と「가까이」, 「가까이」は全て異なる項目となる。以下、頻度順に上位 10 項目ずつを示せば以下の通り：

表 3: 中心語の形式(上位 10 項目ずつ)

| 形式 | 頻度 | 全体比率 | 累積比率 | 形式 | 頻度 | 全体比率 | 累積比率 |
|-------|-----|--------|--------|------|-----|--------|--------|
| 가까이 | 812 | 72.76% | --- | 근처에 | 161 | 25.60% | --- |
| 가까이에 | 51 | 4.57% | 77.33% | 근처의 | 111 | 17.65% | 43.24% |
| 가까이서 | 42 | 3.76% | 81.09% | 근처 | 104 | 16.53% | 59.78% |
| 가까이로 | 25 | 2.24% | 83.33% | 근처에서 | 83 | 13.20% | 72.97% |
| 가까이에서 | 24 | 2.15% | 85.48% | 근처를 | 29 | 4.61% | 77.58% |
| 가까이까지 | 21 | 1.88% | 87.37% | 근처로 | 19 | 3.02% | 80.60% |

| | | | | | | | |
|-------|----|-------|---------|------|----|--------|---------|
| 가까이나 | 20 | 1.79% | 89.16% | 근처에는 | 17 | 2.70% | 83.31% |
| 가까이는 | 16 | 1.43% | 90.59% | 근처까지 | 13 | 2.07% | 85.37% |
| 가까이하지 | 12 | 1.08% | 91.67% | 근처에도 | 13 | 2.07% | 87.44% |
| 가까이를 | 10 | 0.90% | 92.56% | 근처나 | 6 | 0.95% | 88.39% |
| (기타) | 83 | 7.44% | 100.00% | (기타) | 73 | 11.61% | 100.00% |

上の表を見れば分かるように，“가까이”は助詞が全くつかずに現れる場合が最も多く，“가까이”全体の70%以上を占めている。これとは異なり，“근처”は助詞‘-에’「…に」がついた‘근처에’が多く、次いで‘-의’「…の」がついた‘근처의’⁹⁾、そして助詞のない‘근처’まで合わせて用例全体の半数を占める。

上の表に‘가까이하지’という項目が見える。このように‘하다’が中心語自体に含まれている項目は、このほかに‘가까이하고’(頻度は5。以下カッコ内の数字は頻度を示すものである)、『가까이할’ (3), ‘가까이해서’ (3), ‘가까이하는’ (2), ‘가까이하면서도’ (2), ‘가까이하여’ (2)などが現れた。中心語自体が‘하다’を含むこのような例は、合計で43例、またN+1の位置に‘하다’が来る場合は47例あった。あわせて90例が用言‘가까이하다’の例ということになる。“가까이”の用例中、約8%を占めている。2.で確認した辞書の記述では、‘가까이하다’をひとつの用言として扱っており、本稿でも別に扱う必要があるが、ひとまずここではそのまま残しておく。

ところで、2.でとりあげた辞書記述のうち、(5)では“가까이”について名詞的にも用いられるが主格・目的格としては用いられないと説明している。しかし、今回検索によって得られた資料のなかには、以下のような例が見られた：

(9) 비공식조사에 따르면 이 학교 학생 중 60% 가까이가 창업에 큰 관심을 갖고 있다는 것.

(非公式調査によれば、この学校の学生のうち60%近くが起業に大きな関心をもっているとのこと)

(10) a. 가까이를 보는 눈인지, 멀리를 보는 눈인지 분간을 할수 없고,[...]

(近くを見る目なのか、遠くを見る目なのか見分けることができず…)

b. 또는 수면 가까이에서 사용하지만, 해저 가까이를 흘러가는 것도 있다.

(または水面近くで使用するが、海底近くを流れていくものもある)

このような用例の存在を考えれば，“가까이”が主格・目的格としては用いられないという記述は正しいとはいえないだろう。

さて、上の表によれば、中心語につくことのできる助詞にはこれといった制約がなく、その点では“가까이”と“근처”に違いがないと言える。唯一の違いといえば，“가까이”において助詞のない用例が非常に多く見られるという点であろう。

次は“가까이”と“근처”の先行・後行要素について検討してみる。

4. “가까이”と“근처”の先行・後行要素

4.1. N-1 の位置に現れる先行要素

“가까이”と“근처”の直前に来る単語、すなわち N-1 の位置に来る単語について見てみよう。ここでは N-1 の位置に指示冠形詞が来る場合と、地名など固有名詞が来る場合を検討する。

4.1.1. N-1 に指示冠形詞が来る場合

N-1 の位置に ‘이(この), 그(その), 저(あの)’ といった指示冠形詞が来ることがあるか、という点において，“가까이”と“근처”に違いが見られた。まずは以下の例を見てみよう：

(11) a. 이 근처에는 과일가게가 그 집밖에 없었으니까.”

(この近くには果物屋がその店しかなかったから)

b. 집 속에 아직도 노획물이 많을 때는, 그 근처에 다른 반불개미들이 많이 남아 있다는 것을 알 수가 있다.

(家の中にまだ分捕り品が多いときは、その近くに他のアリが多く残っているということが分かる)

(11)のように，“근처”はその直前に指示冠形詞が来ることができる。“근처”の用例のうち、N-1 の位置に指示冠形詞がある例は 49 例あった。“근처”の用例全体に対する比率は 7.79%である。10%に満たない数値であるが，“가까이”の場合と比べてみると、大きな意味を持つてくる。“가까이”の直前に指示冠形詞が来る例は、以下に示す例ひとつしかなかったためである：

(12) 덕이 높으면 높을수록 배우는 사람은 그 가까이까지 따라 올라가는 것이다.

(徳が高ければ高いほど, 学ぶ者はその近くまでついでのぼるのである)

“가까이”の全用例数に対する比率は0.09%となり, “근처”のそれとは比較にならないほど少ない¹⁰⁾。結局, 日本語で「この近く, その近く」といった表現を韓国語に翻訳する場合, “이 가까이, ?그 가까이”とするよりも “이 근처, 그 근처”とする方がより自然であるといえよう。

4.1.2. N-1 に固有名詞が来る場合

N-1 の位置に現れる名詞のうち, 都市や場所を指す固有名詞の分布を調べてみよう。先に提示した(2b)「ソウルの近くに」のような場合, どのように翻訳するのが自然であるのかという問題と関連する。まず用例から見てみる:

- (13) a. 사실은, 그래서 성지 메카와 메디나 가까이에 미군이 존재하게 됐다는 사실은 이슬람교도들에게 여간한 모욕이 아닐 수 없다.

(実は, そうして聖地メッカとメディナ近くに米軍が存在するようになったという事実は, イスラム教徒たちにとって並大抵の侮辱ではない)

- b. 국왕 루이와 마리 앙투ワ네트가 베르맹 가까이에 있는 바렌에서 수 명의 농부에게 붙잡힌 것이었다.

(国王ルイとマリーアントワネットがヴェルダン近くにあるヴァレンヌで数名の農夫に捕らえられたのであった)

- (14) a. 동식이가 속초 근처에서 농장을 하시는 아저씨께 전보를 쳤어요.

(ドンシクが束草の近くで農場をなさっているおじさんに電報を打ちました)

- b. 서울 강남고속터미널 근처에 있는 건영아파트 종합 전시관은[...]

(ソウル江南高速ターミナルの近くにあるコニョンアパート総合展示館は…)

(13)は“가까이”の用例, (14)は“근처”の用例である。どちらの用例を見ても, N-1 の位置に場所を指し示す固有名詞が来ることができるように見える。しかし, 用例の数を見てみると, “가까이”の直前に場所を示す固有名詞がある用例は, (13)に提示した2例に加え, ‘목포’「木浦」, ‘남빙양’「南氷洋」の全4例だけであった。一方“근처”の前に来る固有名詞は, 全部で115例, “근처”の用例全体に占める割合は18.28%にもなり, “가까이”とは大きな違いが見られる。

こうした傾向から見るに, (2b)における「ソウルの近くにあります」という表現は, “서울 근

처에 있습니다” とする方がより妥当であるという結論を得ることになる。また(1)に見られる教科書の本文 “신촌 가까이에 있습니다” 「新村の近くにあります」という文は、むしろ “신촌 근처에 있습니다” という表現の方がより良いといえることができるだろう。

4.1.3. N-1 に数詞あるいは名数詞が来る場合

表 2 で各辞書における “가까이” の意味記述を確認したが、そのなかに「ある基準にほぼ達する程度」といった記述があった。再び提示すれば以下の通り：

- (15) a. 일정한 때를 기준으로 그때에 약간 못 미치는 상태로. (『표준』)
 b. 어떠한 기준에 거의 다다를 정도. / (어떤) 정도에 거의 미칠 만큼. (『연세』)

『연세』ではさらに詳しく、“가까이” の先行要素を「数量を表すことば」と説明している。また『표준』では「一定の時を基準に」としており、例文も “가까이” の先行要素に ‘두 시간’ 「2時間」、‘보름’ 「半月」、‘마흔’ 「40歳」など時と関連した語のみが挙げられている。一方『연세』ではそのような制限がなく、用例も ‘수수료의 절반’ 「手数料の半分」など時間とは関係のないものが提示されている。

このような、いわば「近似性」とでも呼ぶべき意味は、“근처” には見られないものである。そのため、“가까이” のみに見られる N-1 位置の語として、数詞あるいは ‘년’ 「年」、‘시간’ 「時間」、‘미터’ 「メートル」などの名数詞(単位性不完全名詞)が挙げられる。

- (16) a. [...] 84 년의 24 억 달러에 비해 2 배 가까이 늘었다.
 (84年の24億ドルに比べ2倍近く増えた)
 b. 취학률이 낮았기 때문에 전체 국민의 50% 가까이가 국졸 이하의 학력이다.
 (就学率が低かったため、国民全体の50%近くが小卒以下の学歴である)

(16)は、“가까이” の N-1 位置における先行要素として「数詞+名数詞」が現れた例である。『표준』の記述とは異なり、N-1 に来るのは時間を表すことばだけでないことが分かる。N-1 に来るのは、分ち書きにより異なるが、数詞+名詞、単位を表す名数詞¹¹⁾、時間や分量を表す語などである。以上のような用例は全部で 252 例あり、“가까이” の用例中に占める割合は 22.58%であった。

“근처”においても、N-1 の位置に数詞あるいは単位を表す名数詞が来た用例が、全体で 4 例のみ見られた。頻度でも“가까이”のそれとは違いがあるが、“근처”の先行要素に来る数詞(+名数詞)は、どれも具体的な位置を指し示すものであるという点が特徴である：

(17) a. 이 대적점은 남쪽으로 위도 20 도 근처에 위치하고 있는데,[...]

(この大赤斑は、南に緯度 20 度近くに位置しており)

b. ‘매리너’ 5 호는 금성에서 4000 킬로미터 근처를 통과하며 관측하였고, ‘금성’ 4 호는[...]

(マリナー5号は金星から4000キロメートル近くを通過して観測し、金星4号は...)

以上の例においては、「緯度 20 度近く」「(金星から)4000 キロメートル近く」と訳す以外にも、「緯度 20 度付近」「4000 キロメートル付近」などと訳すことも可能であり、いずれも近似値ではなく、具体的に位置を指し示していることが分かる。

これらの用例から、基準となる数量、分量、期間などにほぼ達する程度、という意味での「近く」は、韓国語では“근처”は使えない。“근처”の前に来る語が仮に数詞などであっても、それは近似の基準値ではなく、具体的な位置を示す語ということになる¹²⁾。

4.1.4. N-1 に副詞が来る場合

N-1 の位置に副詞が来るかどうかという点においても、“가까이”と“근처”で差異が見られた。남기심・고영근(1985;1993:274-275)によれば、副詞語は名詞を修飾することもあり、そういった副詞語は、数量や程度または位置を限定するものであるという。副詞語は他の副詞語を修飾することもあるため、“가까이”と“근처”に副詞語が先行し、修飾することも当然可能であるだろう。では、例えば「もっと近く」「すぐ近く」のような表現は、韓国語では“가까이”と“근처”のどちらが多く使われるのだろうか。

ここで“가까이”と“근처”の N-1 に来る副詞(成分副詞・文副詞のどちらも含む)について調べてみると、“가까이”で 146 例、“근처”では 17 例であった。それぞれの用例全体に占める割合は、“가까이”が 13.08%，“근처”が 2.70%となる。単純に数値だけで見ても、副詞の先行において違いが見られる。なかでも、‘더」「より, もっと」など、程度を表す副詞の出現において顕著な差が見られた。

- (18) a. 결국 그는 또 다시 金대통령을 가장 가까이서 보좌하는 수행 실장에 임명되게 된 것이다.

(結局彼は、再び金大統領を最も近くで補佐する随行室長に任命されることになったのである)

- b. 금성도 태양에 조금 더 가까이 있기 때문에 너무 뜨거워졌다.

(金星も太陽にもう少し近くあるため、熱くなりすぎた)

- c. 하숙집이 연대 정문 바로 가까이였기 때문에 그만 창문을 열기만 하면 매운 냄새가 들이닥쳤다.

(下宿が延大正門のすぐ近くだったため、ただ窓を開けさえすれば辛い臭いが押し寄せた)

(18)ではそれぞれ ‘가장’ (最も), ‘더’, ‘바로’ (すぐ)といった副詞が現れており、いずれも“가까이”を修飾している。(18b)における“가까이”は副詞と見られるが、(18c)では指定詞に先行しており、完全に名詞といえるだろう。このように、“가까이”は程度を表す副詞との共起に制約は見られないようであるが、“근처”は異なる。以下は“근처”の場合の用例である：

- (19) a. 바로 근처에 있는 뒤부으르 가의 세 주는 마굿간에 넣어 뒀어요.

(すぐ近くにあるデュブル家の賃貸する厩に入れておきました)

- b. 나도 그녀의 아주 근처에서 잠이 들었다.

(私も彼女のすぐ近くで眠った)

“근처”の用例中、N-1の位置に程度を表す副詞が来た用例は(19)の2例だけである。一方、“가까이”に先行する副詞としては‘더’ (23例。以下カッコ内は用例数) , ‘가장’ (16), ‘좀더’ (10), ‘너무’ (8), ‘아주’ (8), ‘더욱’ (4), ‘바짝’ (4), ‘한결’ (4)などがあつた。

しかし、“근처”に程度を表す副詞が先行することがほとんどないかといえ、実際にはそうともいえない。会話において(19a)のような「바로 근처」という表現が使われることもある。この‘바로’については、KAISTコーパスにおいて“근처”に先行する例が10例、比率にして0.27%見られた。“가까이”に先行する‘바로’の例は20例で、用例に占める割合は0.29%と、“근처”の場合とほとんど変わらない。ただし、‘더 근처’の例に関してはKAISTコーパスにおいても

存在せず、やはり副詞の修飾という点について、“근처”に一定の制約があるのは確かなようである。

4.2. N+1 の位置に現れる後行要素

次に、“가까이”と“근처”の直後、N+1に現れる要素について検討してみる。ここでは、N+1あるいは中心語自体に用言を含む場合を見てみよう。中心語との統辞的關係という点から言えば、N+1の位置よりも後ろに用言の現れる場合もあろうが、ここでは便宜上、N+1位置のみ対象とした。以下、頻度10以上の項目を示せば以下の通り：

表4: N+1に現れた用言(頻度10以上)

| 가까이 | 頻度 | 比率 | 근처 | 頻度 | 比率 |
|-------|------|---------|-------|-----|---------|
| 오다 | 99 | 8.87% | 있다 | 48 | 7.63% |
| 가다 | 95 | 8.51% | 가다 | 21 | 3.34% |
| 하다 | 90 | 8.06% | -이다 | 10 | 1.59% |
| 있다 | 89 | 7.97% | 살다 | 10 | 1.59% |
| 되다 | 47 | 4.21% | | | |
| 다가가다 | 34 | 3.05% | | | |
| 지내다 | 24 | 2.15% | | | |
| 접근하다 | 20 | 1.79% | | | |
| 다가서다 | 17 | 1.52% | | | |
| 살다 | 13 | 1.16% | | | |
| 두다 | 11 | 0.99% | | | |
| 앉다 | 10 | 0.90% | | | |
| その他用言 | 335 | 30.02% | その他用言 | 124 | 19.71% |
| 非用言 | 232 | 20.79% | 非用言 | 416 | 66.14% |
| 合計 | 1116 | 100.00% | 合計 | 629 | 100.00% |

この表で、まず何よりも大きな違いは、「非用言」の用例数である。“가까이”においては、N+1位置に用言が現れた例が、全用例の80%程度を占めるのに対し、“근처”では用言以外の場合が圧倒的に多く、約66%となっている。このことは“가까이”が副詞としてより多く用いられてい

ることを示しているといえよう。本稿では中心語の直後だけを提示したため、実際には“가까이”, “근처”とむすびつく用言の数はこれよりもさらに多いと思われる。ただし3.で見たように, “근처”の場合は‘근처의’のごとく後ろに名詞が予想される用例が少なくとも2割近く存在する¹³⁾ため, 後行要素が「非用言」の用例は, やはり“근처”の方が多いと考えられるだろう。この点に関して, より詳細な検討が必要である。

さて, どちらの中心語においても, N+1 に来る用言として多いのは‘있다’「ある」, ‘가다’「行く」, ‘오다’「来る」¹⁴⁾のような, 存在や移動を表す用言である。‘살다’「住む, 暮らす」, ‘앉다’「座る」なども, 存在を表す用言とみなせるだろう。

“가까이”の上位項目に‘되다’「なる」, ‘지내다’「過ごす」がある。いずれも“근처”の用例には見出せない。‘되다’の用例は, その全てが N-1 位置に数詞あるいは単位を表す名数詞が来るものである。例えば以下のような例がある:

(20) 아주 구식 건물이어서 6 미터 가까이 되는 높이였다.

(ひどく旧式の建物で, 6メートルほどになる高さであった)

これは4.1.3.で述べたように, 基準となる数量や時間に「近い」という意味は, “가까이”のみが表せる。そのため, “근처”に‘되다’が後行する用例が見えないわけである。

また‘지내다’の出現は, “가까이”と“근처”の意味的な違いによるものである。2.の表1で既存の辞書における記述を整理したが, “가까이”の副詞としての用法に, 「親しく」, 「付き合いの間が親密に」などといった意味記述があった。後行する用言が‘지내다’の場合, “가까이”は全て「親しく」「親密に」といった意味が実現される:

(21) a. A 씨 부부는 가까이 지내는 B 씨 부부를 점심 식사에 초대하였다.

(Aさん夫婦は, 親しくつきあう Bさん夫婦を昼食に招待した)

b. 광주 생활과 달랐던 것은 주변 사람들과 가까이 지내지 않았다는 점이다.

(光州の生活と違ったのは, 周りの人々と親しく過ごさなかったという点である)

このような‘지내다’の例は, (21b)のごとく, 付き合う相手を示す名詞が, N-1 の位置に助詞‘-와/과’をともなって現れることが多い¹⁵⁾。

以上, N+1 の位置に現れる用言について, その特徴を整理してきた。“가까이”では直後に用

言が後行する用例が大部分であったのに対し、“근처”では非用言が後行する用例が多く見られた。本稿では中心語の直後に範囲を限定したため、真の意味で“가까이”, “근처”とともに用いられる要素」とは言いがたい。今後は N+2 以降の要素も含め、さらに詳しく検討してみるべきである。

5. まとめ

本稿では、「近く」「近所」のごとく類似した意味を持つ韓国語の“가까이”と“근처”について、コーパスから得られた用例を基に、その先行要素と後行要素を中心に分析した。最後に、本稿で指摘した事柄と今後の課題を整理しておく。

まず中心語の形式について、“가까이”は助詞なしで用いられることが非常に多く、全体の用例の7割を超えた。一方“근처”が単独で使われることはさほど多くなく、用例全体の16%程度である。“근처”においては‘근처에’, ‘근처의’といった形式が最も多く見られた。

次に、中心語の直前、N-1の位置に現れる要素を分析した。コーパスに現れた用例から、①‘이, 그, 저’などの指示冠形詞が先行する場合、②場所を表す固有名詞が先行する場合、③‘더’など程度を表す副詞が先行する場合は、“가까이”よりも“근처”を使う方がより適当であるといえる。また辞書の記述にあるように、④N-1に数詞あるいは名数詞が来て「基準となる数量や期間にほぼ達する程度」という「近似性」の意味を表す場合は、“가까이”のみ可能である。“근처”の直前に数詞や名数詞が来ても、それは具体的な位置を指し示す語として扱われる。

“가까이”, “근처”に後行する用言は、高頻度の項目については“가까이”と“근처”で大きな差は見られないが、‘되다’や‘지내다’など、“가까이”のみに見られるものもあった。特徴的なのは、“가까이”では用言が後行する例が全体の80%程度を占めたのに対し、“근처”の例では非用言が後行する例が多く見られた点である。“가까이”は副詞として用いられる傾向が強いことがうかがえる。

一方今後の課題であるが、本稿では個別的な特徴の指摘にとどまり、より一般的な意味の違いの記述には至らなかった。現時点では、資料の提供といった次元にとどまっている。N-1やN+1の位置に現れる語という機械的な処理だけでなく、統辞的關係を踏まえた先行・後行要素のさらなる詳細な分析が必要であろう。特に先行する名詞などを精密に分析していくことで、“가까이”と“근처”の意味的な違いをとらえる端緒が得られるのではないかと考える。

また、語彙教育の観点からは、本稿で行なったような分析結果を、学習者にどのようにして伝えていくかという点が挙げられる。具体的には、考察の結果を辞書の記述にどのように反映させ

るか、さらに検討していきたい。

註

- 1 「縁語関係」「連語関係」などともいう。Firth (1957)における用語である。韓国の研究においては“연어관계(連語關係)”などと呼ばれる。「コロケーション」をはじめ、本稿で用いる用語については1.4.を参照。
- 2 長谷川由起子・李秀炅(2006)の巻末資料によれば、日本で広く用いられている韓国語教材15種のうち、“가까이”は5種, “근처”は13種の教材に現れている。また韓国の国立国語院(国立国語研究院が2004年11月に改称したもの)が公開している「現代国語使用頻度調査」(현대국어 사용 빈도 조사)の結果によれば、全体で58,437項目のうち、頻度順では“근처”が1,151位, “가까이(副詞)”が1,659位, “가까이(名詞)”が3,560位となっている。
- 3 以下、例文を示す際に、日本語訳を()に入れて示すこととする。
- 4 なお生越直樹・曹喜澈(2000)の「教師用解説書」によれば、(2b)の解答として“근처”を使った文のみが提示されている。
- 5 ここで‘*’ (アスタリスク)を前後に挿入してあるのは, “‘가까이하기엔’”のように文節の前に記号がついていたり, 検索対象自体に助詞がついている用例を検索するためである。
- 6 ただし, KAIST コーパスにおいては前方一致検索のみ可能であって, 注(5)で言及したような, 検索対象の前に記号がついている例や, あるいは分かち書きがされていない例については検索できなかった。
- 7 ここではPerlを用いて, スペース文字を基準に中心語の前後4文節までを文節ごとに切り出した。
- 8 しかし, 日本語の辞書において, 「近く」は「近いところ。近辺。」「近所」は「近いところ。近辺。付近。」のごとく記述されており(『日本国語大辞典 第二版』小学館による), 訳語としての「近く」「近所」がこれらの語の弁別にどれほど有用か, 計りかねる。
- 9 “가까이”の場合, 助詞‘-의’のついた‘가까이의’は3例しか見られなかった。用例数から見れば“근처”と大きな違いを見せているが, これは“가까이”が形容詞‘가깝다’から派生したためであろう。体言を修飾する場合, 形容詞‘가깝다’の連体形‘가까운’を用いればよいためである。資料に現れた, ‘가까이의’の例を提示すれば以下の通り:
(例) 부끄럼을 타는 여자는 벽 가까이의 의자에 암전히 앉아 있었고, 좀 대담한 여자는 창가의

긴의자에 보란 듯이 버티고 있었다.(恥らう女は壁の近くの椅子にしとやかに座っており、少し大胆な女は窓際の長椅子に見せつけるようにふんぞり返っていた)

- 10 なお, KAIST コーパスの検索結果においても, “가까이” の用例 6,993 例のうち, 指示冠形詞が先行するのは 6 例のみで, “가까이” の全用例に対する比率は約 0.09% であった. “근처” に指示冠形詞が先行する例は 3,726 例のうち 359 例, 比率にして 9.63% であった.
- 11 このような場合には, N-2 の位置に数詞が来ることになる.
- 12 こうした違いは, “근처” が漢字語であるのに対し, “가까이” は固有語であるということと関係していると思われる.
- 13 表 3 で示した中心語の形式のうち, ‘근처의’ の例は 111 例で 17.65% 存在する. また ‘근처’ のごとく助詞がない形式も, 後行する名詞を修飾すると予想される. この 2 つの項目を合わせれば, 3 割程度は「非用言」の用例とみなすことができる.
- 14 なお, “근처” の用例中, N+1 の位置に ‘오다’ が現れた例は 8 例である.
- 15 本稿の資料においては, N+1 に ‘지나다’ が現れた用例 24 例のうち, 9 例が該当する.

参考論著

- 生越直樹・曹喜澈(2000)『ことばの架け橋』, 東京: 白帝社.
- 菅野裕臣ほか編(1988;1991)『コスモス朝和辞典』, 東京: 白水社.
- 小池生夫編集主幹(2003)『応用言語学事典』, 東京: 研究社.
- 南潤珍(2006)「日本語と韓国語の連語構造の対照分析に基づいた韓国語教材の開発に関する研究」, 平成 16-17 年度科学研究費補助金基盤研究・研究成果報告書(課題番号 16520333).
- 長谷川由起子・李秀炅(2006)『韓国語初級教材の語彙調査-教科書 15 種に現れた語彙的学習項目-』, 東京: 白帝社.
- 油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎(1993)『朝鮮語辞典』, 東京: 小学館.
- 강현화(2000), 코퍼스를 이용한 부사의 어휘 교육 방안 연구, “이중언어학” 제 17 호, 서울: 이중언어학회, 57-75.
- 국립국어연구원(1999), “표준국어대사전”, 서울: 두산동아.
- 남기심・고영근(1985;1993), “표준 국어문법론”, 서울: 탑출판사.
- 문금현(2002), 한국어 어휘 교육을 위한 연어(連語) 학습 방안, “국어교육” 109 호, 서울: 한국국어교육연구학회, 217-250.

- 문금현(2004), 한국어 유의어의 의미 변별과 교육 방안, “한국어 교육” 제 15 권 3 호, 서울: 국제한국어교육학회, 65-94.
- 봉미경(2005), 시간부사의 어휘 변별 정보 연구: 유의어 ‘방금’과 ‘금방’의 분석을 중심으로, “외국어로서의 한국어교육” 30, 서울: 연세대학교 한국어학당, 113-139.
- 연세대학교 언어정보개발연구원 편(1998), “연세한국어사전”, 서울: 두산동아.
- 유현경(2007), ‘사이’, ‘동안’의 어휘 정보 연구, “한국어 교육” 제 18 권 2 호, 서울: 국제한국어교육학회, 309-329.
- 유현경·강현화(2002), 유사관계 어휘정보를 활용한 어휘교육 방안, “외국어로서의 한국어교육” 27, 서울: 연세대학교언어연구교육원, 243-269.
- 유현경·남길임(2007), 결합관계에 따른 ‘아래’와 ‘밑’의 의미 연구, 第58回朝鮮学会発表要旨.
- 한송화·강현화(2004), 연어를 이용한 어휘 교육 방안 연구, “한국어 교육” 제 15 권 3 호, 서울: 국제한국어교육학회, 295-318.
- Firth, J. R.(1957), ‘Modes of Meaning’, *Papers in Linguistics: 1934-1951*, London: Oxford University Press.(大東百合子訳, 「意味の様相」『フェース言語論集(I) 1934-1951』東京: 研究社, 1978年)
- Lewis, M.(ed)(2000), *Teaching Collocation: Further Development in the Lexical Approach*, Boston: Heinle.
- Sinclair, J.(1991), *Corpus, Concordance, Collocation*, London: Oxford University Press.
- 21세기세종계획(21世紀世宗計画) <http://www.sejong.or.kr/>
- 국립국어원(国立国語院) <http://www.korean.go.kr/>